

## 国際物流戦略チーム「今後の取組（改定版）」について

### 【「今後の取組（改定版）」の内容】

○昨年 3 月の第 14 回本部会合にて、「今後の取組」検討ワーキンググループ（以下、WG）が設置され、今年度に 4 回にわたり WG が開催された。この度は、当 WG の検討結果を踏まえた「今後の取組（改定版）」について発表する。

#### 〈関西の物流を取り巻く状況〉

○世界の動きとしては、今般、特に東・東南アジアでのグローバルサプライチェーンが複雑化する中、昨年 12 月 30 日に TPP11 協定が発効し、この 2 月 1 日に日 EU の EPA が発効された。このような経済連携が更なる貿易拡大への柱になることが考えられる。

【資料 3-2 p4-6】

○日本においては、特に我が国の情報化が世界的にも遅れをとっており、IoT や AI の活用は必要不可欠な状況にある。

【資料 3-2 p7,8】

○関西では、電気・電子産業及び医療産業が長年にわたり、関西の産業を支えてきており、国外への出荷について、近年も成長を続けている。また、特徴として、関西には世界トップクラスのシェアを誇るグローバル企業やグローバルニッチトップ企業などの多様な中小企業が集積している。

【資料 3-2 p11-14】

○また、関西の農水産物輸出は増加傾向であり、政府目標として掲げられている「平成 31 年の農林水産物の輸出額 1 兆円」を達成するためにも、関西における食産業の更なる発展が求められている。

【資料 3-2 p15】

○さらに、昨年、大阪府北部の地震や7月豪雨、特に台風 21 号では近畿地方に大きな被害があり、改めてインフラの安全、安心の必要性、重要性について意識した。非常時においても崩れない物流の構築についても検討すべき大きな課題である。

【資料 3-2 p16-18】

#### 〈関西が目指すべき国際物流のビジョンの構築〉

○以上の状況から、WG では、「産業が活動しやすい物流環境」をビジョンとし、4 つの強みに焦点を当てた。本改定では、物流の観点より、これらの強みに付加価値を付け、関西の産業の活性化を目指す取組を策定した。具体的に、「コールドチェーンの構築」、「世界を牽引する高度な情報処理」、及び「BCP の再構築（輸送手段の多様化）」の 3 つを主要な課題として取組を策定した。

【資料 3-2 p19, 20】

#### 〈取組案（リーディングプロジェクト）〉

○具体的な取組案は 7 つある。

【資料 3-2 p34, 35】

（以下、同じページ）

○新設した「崩れないグローバルコールドチェーンの構築」の取組としては、『温度センサ付き RFID 等の導入』、『情報プラットフォームの構築』、『大阪湾ポータルサイトの再構築』を盛り込んでいる。温度管理が必要な食や医療産業への付加価値を考える際、非常時においても崩れないコールドチェーンの構築が必要不可欠であり、温度管理可能な倉庫等のインフラ整備や、一気通貫の情報取得が可能な環境整備を盛り込んでいる。

○その他、『自動化ターミナルの形成』では特に自動化技術の導入や運用の環境整備に向けた取り組みを進めていく。

○BCP の観点では、『輸送手段の多様化』、『自立型電源装置の設置』及び『3 空港+阪神港 BCP の構築』を掲げている。特に『輸送手段の多様化』としては、関西国際空港において RORO 船等が着岸できるような環境整備を盛り込んでいる。

○以上の取組については、「今後の取組」に反映をしている。特に、崩れないグローバルコールドチェーンの構築については、新たに項目を立てて戦略チームの取組に加えている。また各分野の取組にも具体的な取組を記載している。今後は、資料 3-5 のロードマップにそって進めていく

【資料 3-3 p4、資料 3-5】

以上